

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎理論と複合的な専門知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い論理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的知識を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 												99 単位														
配当単位数合計		15 単位			20 単位			14 単位		10 単位		12 単位		6 単位		8 単位		6 単位		8 単位		99 単位						
M2 M1	前期・後期	● 必修科目		※ インターンシップ 2		グローバルテクノロジー特論b 1		エンジニアリング・コミュニケーション特論 1		ソフトウェア工学特論 2		エネルギー・環境工学特論 2										99 単位						
		※ 修了単位に含めない		材料・デバイス開発実務特論 3		ロボティクス特論 2		CAD/CAM特論 2		半導体エレクトロニクス特論 2		パルスパワー工学特論 2																
分野		不開講科目		グローバルテクノロジー特論a 1		航空宇宙工学特論 2		自動車工学特論 2		通信システム・方式特論 2		電力工学特論 2		材料設計工学特論 2		加工工学特論 2		振動工学特論 2		機械制御特論 2		年間履修上限単位数なし						
		応用数学特論 2		技術経営特論 2		インターナショナルプレゼンテーション 1		グローバルリーダーシップ特論 2		表示デバイス工学特論 2		光機能工学特論 2		パワーエレクトロニクス特論 2		最速システム工学特論 2		内燃機関特論 2		流体工学特論 2								
		応用物理学特論 2		外国語特論 2		● フィールド研究 4		フィールドプラクティス 4		フォトニクス工学特論 2		半導体デバイス工学特論 2		電磁波工学特論 2		メカトロニクス特論 2		システム制御工学特論 2		材料実験力学特論 2		接合工学特論 2						
		数理科目		学際科目		専門横断				電子物性特論 2		集積回路設計特論 2		情報工学特論 2		プラズマ工学特論 2		インテリジェントメカニズム特論 2		機能材料工学特論 2		伝熱工学特論 2						
		共通横断								光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械力学		熱・流体		設計・製作						
										エレクトロニクス・情報分野				電機・制御分野				機械工学分野										
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門」：「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通して、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にわたる見方と考え方を確立する。 																										
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長して意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																										
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>〈工学部〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生業にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】[主体的に生業学習を継続する意欲と関心] 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者との協働による課題解決力] 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] <p>◆注：「3」は明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>〈電子情報システム工学科〉</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科学として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎知識を応用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構築することができる。【人文科学・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身に付いている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力【D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p> <p style="text-align: right;">【 】はディプロマ・サプリメントシステムにおける表示内容</p>																										
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野での工学教育ならびに思考・批判力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、実践的に社会の発展に貢献する方向を備えている。			工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。			数学や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。			電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。			技術者として必要な社会倫理を理解している。			電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作り出すシステム技術を構想できる。			情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。			卒業に必要な単位数124単位					
配当単位数合計		-			-			35 単位		6 単位		24 単位		24 単位		89 単位												
通年		哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本の歴史(2) 日本語(日本語法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリア・コミュニケーションⅠa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅡb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)			微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 淀川と環境(1) 宇宙・地球・生命・探究演習(1) 工学倫理(2)			級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2)			インターンシップ(2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)		通年		卒業研究						10 単位							
前期・後期		2 5 4			4			3		情報と職業 2 電波・通信法規 2		メディア情報開発 2 ネットワーク設計 2		情報理論 2		44 単位												
前期・後期		1			2			1		光エレクトロニクス 2 デジタル電子回路 2 半導体デバイス基礎 2 アナログ電子回路 2 電気磁気学Ⅲ 2		半導体デバイス工学 2 電子回路設計 2 レーザー工学 2 制御工学 2		コンピュータシステム 2 デジタル信号処理 2 コンピュータグラフィクス 2 ネットワーク工学 2 通信方式Ⅰ 2		27 単位												
前期・後期		1			1			1		基礎電子回路Ⅱ 2 電気回路Ⅱ演習 1 電気回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅱ 2		情報通信基礎 2 固体エレクトロニクスⅠ 2 基礎電子回路Ⅰ 2 電気磁気学Ⅰ 2		電気回路Ⅲ 2 固体エレクトロニクスⅡ 2		伝送理論 2		8 単位										
前期・後期		1			1			1		電気回路Ⅰ演習 1 電気回路Ⅰ 2 電子情報システム基礎演習Ⅰ 1		コンピュータアーキテクチャ 2		電気計測 2														
分野		キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理学と教育			その他連携			分野			基礎			技術人材育成・資格関連科目			エレクトロニクス系科目			情報通信系科目		
カリキュラムポリシー		<p>〈工学部カリキュラム・ポリシー〉</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開講し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 履修した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や問題意識を養う。 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注：「3」(4)「5」(6)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p>																										
アドミッションポリシー		<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 自ら進んで学ぼうという意欲のある人 																										